

1. 科目名 (単位数)	教育・学校心理学／教育心理学 (4 単位)		3. 科目番号	PSMP3131
2. 授業担当教員	水谷 聡秀			
4. 授業形態	講義および演習、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「学習心理学」を履修していることが望ましい。			
7. 講義概要	教育心理学とは子どもを教育していく上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から解説する学問である。教育心理学の基礎とされる発達、学習、人格、測定・評価の 4 つの領域について基礎知識を深め、今日の教育の現場が必要としている問題解決のための諸要因を解説する。本講義では、以上のような基礎的知識の習得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている諸問題に対する支援の在り方についても考察する。			
8. 学習目標	1. 教育学と心理学の深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 教育場面において生じる問題及びその背景について指摘できるようになる。 3. 子どもの発達と学習能力を高めるさまざまな要因について理解できるようになる。 4. 教育の目的から考える学校生活のあり方：理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 5. 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について考察できるようになる。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	・講義前には必ず該当部分に目を通し、疑問点を明確にしておくこと。 ・2回レポートを提出する。 1 前半の中から自分が興味を持ったテーマについて (A4用紙 1枚、1,000字程度) 2 後半の中から自分が興味を持ったテーマについて (A4用紙 2枚、2,400字程度) *各回とも、そのテーマの概要を紹介し、どこに興味を持ったのか、疑問点は何か、また自分なりの意見を、文献を2、3冊参考にしてまとめる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 守 一雄 (著) 『教育課程コアカリキュラムに対応した教育心理学』 松本大学出版会、2019。 【教 材】 随時資料を用意し活用する。			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 ・教育学と心理学の関係、子どもの発達と学習能力について十分に理解できたか。 ・学習の場における諸問題についてはグループディスカッションに積極的に参加できたか。 ・基礎的な知識を習得できたか。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 平常点(授業態度・授業への参加・諸活動) として 50% 2. まとめの課題 (テスト・レポート・発表など活動) として 50%			
12. 受講生への メッセージ	・将来、スクールカウンセラーを目指す学生もいるかもしれない。その場合、教育心理学は、学校現場に必ず役立つ知見を与えてくれるはずである。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言してほしい。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。特に私語については厳しく対応する。			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 教育の科学的研究 (1) 教育心理学の定義、宗教・哲学・科学	事前学習	教科書第 1 章「教育の科学的研究」の 1.2 まですを読み、教育心理学の定義を理解する。	
		事後学習	教育心理学とは何かについてノートにまとめるか、紹介された本を読む。	
第 2 回	教育の科学的研究 (2) 科学として出発した心理学 科学としての心理学から生まれた教育心理学	事前学習	教科書第 1 章「教育の科学的研究」の 1.3 から 1.5 まですを読み、教育心理学とは何かを理解する。疑問点を明確にする。	
		事後学習	「教育心理学に何が期待されるか」についてノートにまとめるか、紹介された本を読む。	
第 3 回	発達と教育 (1) 遺伝と環境、成熟、学習	事前学習	教科書第 2 章「発達と教育」の 2.1 から 2.3 まですを読み、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「成熟と学習」について巻末の参考文献などで調べて、理解した内容をノートにまとめる。	
第 4 回	発達と教育 (2) 行動遺伝学の研究成果 遺伝も環境も：そして教育の意味	事前学習	教科書第 2 章「発達と教育」の 2.4 から 2.6 まですを読み、疑問点を明確にする。	
		事後学習	「遺伝と環境の相互作用」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめたり、人と意見を交換したりする。	

第 5 回	動物の学習・人間の学習・機械の学習 (1) 動物の学習：本能に対立するものとしての学習 人間の学習：言葉を使うというヒトの特徴と学習	事前学習	教科書第 3 章「動物の学習・人間の学習・機械の学習」3.1 から 3.2 までを読み、疑問点を明確する。
		事後学習	「人間と動物の学習の相違」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 6 回	動物の学習・人間の学習・機械の学習 (2) 機械の学習：コンピュータの発展とその学習原理	事前学習	教科書第 3 章「動物の学習・人間の学習・機械の学習」の 3.3 を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「人間と機械の学習の相違」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 7 回	ワーク (1) 吉野智富美・吉野俊彦著「プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック」にもとづいた課題	事前学習	行動分析学について事典などで調べ、疑問点を明確にする。
		事後学習	行動分析学について、検索エンジンなどで書籍を探し出し、さらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第 8 回	資料購読・視聴 (1) 中井久夫の「いじめ論」精読、あるいは理解	事前学習	配布資料について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「いじめ論」を精神科医の中井久夫の観点から熟考し、人と意見を交換し、希望をもってどう解決していくか考える。
第 9 回	言語・記憶・思考 (1) 認知心理学の誕生 言語はいかに学習されるか	事前学習	教科書第 4 章「言語・記憶・思考」の 4.1 から 4.2 を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「言語」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 10 回	言語・記憶・思考 (2) 記憶の性質と機能 思考とは何か	事前学習	教科書第 4 章「言語・記憶・思考」の 4.3 から 4.4 を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「記憶」と「思考」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 11 回	教育心理学の授業でのレポートの書き方	事前学習	教科書付章 1 を読む。この授業での「レポートの書き方」について理解する。
		事後学習	ロジカルシンキング実践法のほか、他のレポート作成に関する書籍を読んでおく。
第 12 回	人格と教育 (1) 頭の良さは一元的か多能的か 知能は一生変わらないのか	事前学習	教科書第 5 章「知能と教育」の 5.1 から 5.3 を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「知能」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 13 回	人格と教育 (2) 性格検査の種類 生まれか育ちか	事前学習	教科書第 5 章 5.4 を読み「生まれか育ちか」を考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ビッグファイブ」について紹介した文献などで調べて、理解した内容をノートにまとめるなどする。
第 14 回	レポート発表 第 1 回から第 13 回までのテーマから選択	事前学習	教科書付章 1 やロジカルシンキング配布資料をよく読み、レポートを作成する。
		事後学習	指摘を受けた箇所について再考して、レポートをまとめなおしておく。
第 15 回	自己効力感と教育 (1) 主体的な学びとは：自己調整学習 自己調整学習を引き出す隠れた力：自己効力感	事前学習	教科書第 6 章「自己効力感と教育」の 6.1 から 6.3 までを読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「自己効力感」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 16 回	自己効力感と教育 (2) 成功経験、自己効力感、自己調整学習、成績向上の望ましいサイクルの実現	事前学習	教科書第 6 章「自己効力感と教育」の 6.4 から 6.5 までを読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「教師が自己効力感に寄与できること」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 17 回	動機づけの心理学 (1) 動因と誘因、そして第 3 の要因 欲求の階層構造	事前学習	教科書第 7 章「動機づけの心理学」の 7.1 から 7.2 までを読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「欲求の階層構造」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめるなどする。
第 18 回	動機づけの心理学 (2) 内発的動機づけ 知的好奇心	事前学習	教科書第 7 章「動機づけの心理学」の 7.3 から 7.5 までを読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	「動機づけ」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめたり、人と意見を交換したりする。

第 1 9 回	資料購読・視聴 (2) マインドセットやグリットの書籍、TED などから、 自分もしくは教育場面への応用を考え、討論する	事前学習	関連情報を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	今回使用した書籍の一冊を選んで、理解した内容をノートにとり、人に話すなどをする。
第 2 0 回	教育における評価 ブルームの教育目標のタクソノミーと絶対評価 偏差値という相対評価、ルーブリック評価など	事前学習	教科書第 8 章「教育における評価」を読み、 疑問点を明確にする。
		事後学習	「相対評価と絶対評価」について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめるか、関連文献を読む。
第 2 1 回	社会性と道徳 (1) 科学的視点の欠けた道徳教育と道徳の教科化 道徳への科学的アプローチ 進化倫理学、実験倫理学など	事前学習	教科書第 9 章「社会性と道徳」の 9.1 から 9.5 までを読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	進化心理学や道徳の心理学について巻末の参考文献などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめるなどする。
第 2 2 回	社会性と道徳 (2) 情けは人のためならず ジョナサン・ハイトの基本道徳次元	事前学習	教科書第 9 章「社会性と道徳」の 9.6 と配布資料を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	理解した内容をノートにまとめるなどする。巻末の参考文献などを参考にするとよい。
第 2 3 回	ワーク (2) ポジティブ心理学の前提となる古典を学生同士で紹介する。あるいは、ポジティブ心理学の実践的課題をする	事前学習	事前に紹介した書籍や動画を視聴し、まとめておく。また、自分の「強み」を見つけてどのように活かすか考える。
		事後学習	「ポジティブ心理学の教育への応用」について論文や書籍などでさらに調べて、考えたことをまとめるか、人と意見を交換するなどする。
第 2 4 回	ウェルビーイング向上と徳の二面性 主観的、心理的ウェルビーイング ポジティブ心理学と第 2、3 波	事前学習	配布資料を読み、子どもの教育や自分自身に何が重要かを考え、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ウェルビーイング」と「強み」について書籍などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめたり、人と意見を交換したりする。
第 2 5 回	ソシオメトリー ソシオマトリックス、ソシオグラム ソシオメトリー指標	事前学習	配布資料を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	ソシオメトリーは 1980 年代までよく学級集団に使用されていた。昔の本を見つけて読んでみるとよい。
第 2 6 回	学級集団 システム論からの洞察 学生同士の相互作用から生じる集団現象	事前学習	配布資料を読み、疑問点を明確にする。
		事後学習	関連書籍を読んで、学級集団について考え、人と意見を交換してみる。
第 2 7 回	発達障害 広汎性機能障害を中心に学ぶ	事前学習	「自閉症」についてまとめて資料を作成する。
		事後学習	「自閉症」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめたり、人と意見を交換したりする。
第 2 8 回	教育心理学の使命 教育現場での ICT 活用の検討	事前学習	教科書第 10 章「教育心理学の使命」について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	巻末の参考文献などを読み、人と意見を交換するなどする。ICT 活用が教育にどう応用されるか思いめぐらしておく。
第 2 9 回	レポート発表 第 15 回以降のテーマから選択	事前学習	レポート発表の準備をし、前々日にはメールで教員に送る。
		事後学習	討論したことをメモするなりして、自分なりにまとめなおす。
第 3 0 回	まとめと興味のある点について討論、質疑応答	事前学習	第 29 回までに受講生、教員と討論したかったことや、言い残したことを考える。
		事後学習	巻末の参考文献を読み、普段から考える。ときには人と意見を交換する。